



2025 MFJ 全日本ロードレース選手権シリーズ

ROUND 5

SUPERBIKE RACE in KYUSHU



■ 大分県
■ オートポリス
■ 1周=4.674km

■ クラス / JSB1000
■ マシン / BMW M1000RR
■ タイヤ / BRIDGESTONE

JSB1000 **11** 関口 太郎

RACE 1

9月13日(土) 天候: 曇りのち雨 コース: ドライ

予選 12 番手 (タイム: 1 分 50 秒 636)
決勝 10 位

RACE 2

9月14日(日) 天候: 雨のち曇り コース: ドライ

予選 12 番手 (タイム: 1 分 50 秒 980)
決勝 DNF



三明電気工事



レース2はスタート直後のアクシデントで悔しいリタイア

全日本ロードレース選手権第5戦が大分県・オートポリスで9月13日（土）・14日（日）に開催された。シリーズ中、唯一となる九州地区でのレースは、関東をベースにしているチームにとって最も遠いサーキットとなる。SANMEI Team TARO PLUSONEのようなプライベートチームにとって移動費や人件費は大きな負担となるため前週に行われた事前公開テストを経費削減のため今年もキャンセル。レースウィークからの走り出しとなっていた。



阿蘇の大自然の真ただ中にあるオートポリスは、天候が変わりやすいサーキットだ。天気予報も雨マークが並んでいたが、金曜日は晴れ、土曜日も一時雨が降ったが、ドライコンディションで走行できていた。

走行初日となった金曜日は、40分の走行が2本あり、コースコンディションを確かめながらマシンをセットアップ。土曜日の公式予選とレース1に向けてチームとディスカッションしながらアジャストしていく。



土曜日の午前中に行われた公式予選。まずは、前日から変更した部分の確認を行いピットに戻ると、ニュータイヤを履いてコースイン。まず1分50秒980をマークすると、計測最終周に1分50秒634まだタイムアップし予選を終える。ポジションは、レース1、レース2ともに12番手となっていた。



15周で争われたレース1。スタートを決めた関口は、オープニングラップを10番手で終えると、2周目には、水野選手をかわし9番手に上がる。4周目に児玉選手にかわされるが、そのテールをマークする。前を走る長島選手と児玉選手がバトルを繰り広げるのを見ながら、チャンスを伺っていたが、徐々にペースを上げられなくなってしまう。その背後には、鈴鹿8耐で組んだ中村選手が迫ってくる。そして14周目にかかわれるが、最終ラップに前で転倒があったため10位でチェッカーを受けた。

日曜日は、朝からオートポリスは、雲の覆われてしまいタイムスケジュールは大幅にディレイ。各クラス、レース周回数を減算して行われることになるがJ-GP3クラス、ST600クラスの中止が発表される。しかし、JSB1000クラスが始まるころに奇跡的に天候が回復。5分間のウォームアップ走行の後、12周でレース2が行われた。



関口は、レース1で足らなかった部分を改善すべく、レース2に向けてアジャスト。ウォームアップ走行でフィーリングがよくなったことを確認し手応えを感じていたのだが…。シグナルがブラックアウトし、レース2が始まるが、関口は、やや出遅れてしまう。遅れを挽回しようとアウトから1コーナーに入っていくが、イン側のライダーが早めにマシンを起こしたため、足もとをすくわれる形で接触転倒。マシンのダメージは大きく再スタートはできず、その場で悔しいリタイアを余儀なくされた。



経費削減のため事前テストをキャンセルし、レースウィークからの走行になりましたが、金曜日から集中してマシンセットを進めました。前戦のもてぎも事前テストがなかったので、チームとしても“流れ”ができていましたし、スタッフといろいろ考えながら走るごとによくなっていました。レース1は長島選手と児玉選手の後ろについて、終盤に勝負しようと思っていたら、気付いたら自分の方が厳しい状況になっていました。その辺の反省を生かしてレース2に向けてアジャストしたら、すごくよくなっていたので、いいレースができると思っていただけに悔しいですね。次戦、岡山も事前テストは不参加の予定ですが、頑張りますので応援よろしく願いいたします。

関口 太郎

